秋季学位記授与式挙行
財務状況報告

日本工業大学 通信
NIPPON INSTITUTE OF TECHNOLOGY
第191号

編集・発行
日本工業大学
広報室
〒345-8501 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台4-1
☎(0480)34－4111(代)
http://www.nit.ac.jp

平成26年（2014年）11月1日発行

秋季学位記授与式・入学式
秋季留学生別科修了式挙行

入学式における学長式辞

留学生別科では修了祝賀会が催された

波多野学長から学位記を授与される修了生

9月20日（土）、秋の訪れが感じられる気配の中、平成26年度の秋季学位記授与式・留学生別科修了証書授与式、ならびに秋季入学式が、本学の14号館5階会議室において挙行された。

当日は、まず午前9時30分より秋季学位記授与式・留学生別科修了証書授与式が挙行され、今年度は学部53名、大学院博士前期課程6名、大学院博士後期課程1名、留学生別科10名（早期進学者1名を含む）の合計70名が本学を卒業・修了した。

告辞では波多野学長が、「自信を持って新たな一歩を踏み出してください。今日はその一歩を祝福する日です」と、卒業生・修了生たちにエールを送った。

そして正午からは、同会場にて秋季入学式が挙行された。今年度は、学部4名、大学院博士前期課程6名、留学生別科18名の合計28名が、本学に入学した。

入学式は波多野学長による式辞、柳澤理事長による祝辞、後援会、工友会からの記念品贈呈と進み、新入生たちは少し緊張した面持ちで式に臨んでいた。

当日は天候が大きく崩れることもなく、柳澤理事長、土井工友会会長、日本工業大学駒場高校・中学校の吉田校長をはじめ多くの教職員が出席した。また、今年度は土曜日の開催ということもあってか、父母の姿だけでなく研究室の後輩が駆けつけて祝福する場面や友人や恩師と記念撮影をする場面も見られ、華やかな式となった。

キャンパスリニューアル

武道場の耐震工事を実施
合宿棟をリニューアル

今夏、文科省「平成26年度防災機能強化事業助成金」を活用して、武道場（W22棟861平方㍍）の非構造部材耐震補強工事を実施した。内容は①天井板の撤去と鉄骨塗装②照明器具更新と吊り金具の耐震化。この工事により、学生の安全向上と照明のLED化による省エネ効果が図られ、隣接する体育館と色の調和が取れ景観的にも向上した。

次に「平成26年度後援会特別事業」により、合宿棟（S21棟600平方㍍）をリニューアルした。学生の要望に最大限応え、左記の内容を実施。①女子専用浴室新設（シャワー付）②食堂のオープンキッチン化③和室の洋室化④貴重品入れ新設⑤トイレのウォシュレット化⑥照明の省エネ化⑦ラウンジ新設。10月20日(月)より使用開始。

耐震補強のため天井部分の改修を行った武道場

合宿棟リニューアル［左上］女子浴室［右上］オープンキッチン［左下］宿泊室［右下］入口付近

彩の国連携力育成プロジェクト　第3回ワークショップ
「ヒューマンケア」をテーマに意見交換

9月18日（木）、「彩の国連携力育成プロジェクト」の第3回ワークショップが開催された。埼玉県立大学、埼玉医科大学、城西大学と本学の4大学から教職員及び学生が約40名、本学からは8名が参加した。今回は埼玉県立大学のヒューマンケア論が主題とされた。保健・医療・福祉分野の多様な営みを統合した概念であるヒューマンケアを多視点から考察する科目である。こうした科目を各大学で開講し、学生に共通基盤を与えることは、4大学の共同による多職種連携教育（IPE）の推進に有効と言える。

そこで、当日は先ず大学ごとのテーブルで、各大学におけるヒューマンケアの意味や意義について意見交換が行われた。その後、各大学の代表以外は他のテーブルに移り、分野を超えた共通性や相違について議論した。最後に元のテーブルに戻り、各大学の学生がヒューマンケアを学ぶ科目や方法を検討した。

本学のテーブルでは、工学分野におけるヒューマンケアとは何かという新鮮な問いに、参加者から有意義な発言があり、活発な意見交換が行われた。埼玉県立大学からは、ヒューマンケア論に環境の視点を加えることも重要との発言があった。生活環境デザイン学科のプロジェクトへの関わりが、その発言を促した可能性が窺われる。予定されているカリキュラム改訂を念頭に、ヒューマンケアに関する科目を具体的に検討する大学もあった。ヒューマンケアの捉え方の共通性と相違の確認もでき、4大学によるIPEの共通基盤の構築に向けて、有意義なワークショップとなった。

各テーブルでは、大学や分野の枠を越えて意見交換が行われた

第46回 若杉祭 テーマ「MAKE」

メインステージで行われたオープニング（昨年）

模擬店（昨年）

本年も11月1日（土）～3日（月・祝）の3日間にわたり若杉祭が開催されます。今回の若杉祭では、ものづくりを学ぶ大学の学生たちが、自分たちや来場者の笑顔や思い出をつくるため、一つの大きなイベントをつくりあげる、という想いから「MAKE」というテーマを掲げています。出店や展示、ライブイベントをはじめ、本学の特色を活かした企画として体験型実験企画やフォーミュラカーの見学が用意されていますので、ぜひ若杉祭にご来場いただければ幸いです。

大学祭実行委員会委員長　大谷悠太

ウィークデー・キャンパス・ビジット

11/14（金・埼玉県民の日）9:45-16:30

日本工業大学で大学生活と普段の授業を体験
対象：高校1～3年生　定員：30名　参加無料
詳細・お申し込みは下記WEBサイトをご覧ください
http://www.nit.ac.jp/topics/view/1415

オープンキャンパス

11/22（土）「入試直前対策をチェックしよう!」

大学・学科紹介、学内施設公開、研究室ツアー、入試説明、入試対策講座、個別進路相談など…
お問い合わせ・お申込み先：教務部入試室
0120-250-267　E-mail: nyu-shi@nit.ac.jp

日本工業大学　工学部　平成27年度入試日程

●機械工学科　●ものづくり環境学科　●創造システム工学科　●電気電子工学科　●情報工学科　●建築学科　●生活環境デザイン学科

入試種別			日程		
特別奨学生入試［筆記試験、調査書および面接による選考］			第2期		
	出願期間		1/ 6(火)※1～1/23(金)※2		奨学生には、1年次の授業料全額または半額を免除
	試験日		1/31(土)～2/ 2(月) 本学(都合のよい1日を選択)		
一般入試			一般入試A		一般入試B
	出願期間		1/ 6(火)※1～1/23(金)※2		2/3(火)～2/13(金)
	試験日［本学・東京会場は試験日自由選択制］		1/31(土) 本学・郡山・水戸・高崎・柏・東京・静岡		2/19(木) 本学・東京
			2/ 1(日) 本学・仙台・東京・横浜・新潟・長野・富山		
			2/ 2(月) 本学・宇都宮・千葉・東京		
センター利用入試			センター利用入試A	センター利用入試B	センター利用入試C
	出願期間		1/ 6(火)※1～1/29(木)	2/3(火)～2/13(金)	2/16(月)～3/7(土)
AO入試・AOエントリー入試・AOコーディネータ入試			第3期	第4期	
	AOエントリー入試	エントリー期間	11/ 4(火)～11/13(木)※3	1/30(金)～2/26(木)	
		面談日	11/22(土)・29(土)	書類受理後に連絡	
		内定日	12/ 2(火)	3/ 5(木)	
	コーディネータ入試の申込期間		平成27年2月28日(土)まで、随時受付		
	出願期間		12/ 4(木)～12/11(木)	2/27(金)～3/ 7(土)	
	合格発表		12/20(土)	3/14(土)	

本学で先端技術研究の取り組みを

社会人大学院生　募集（日本工業大学大学院　社会人特別選抜）

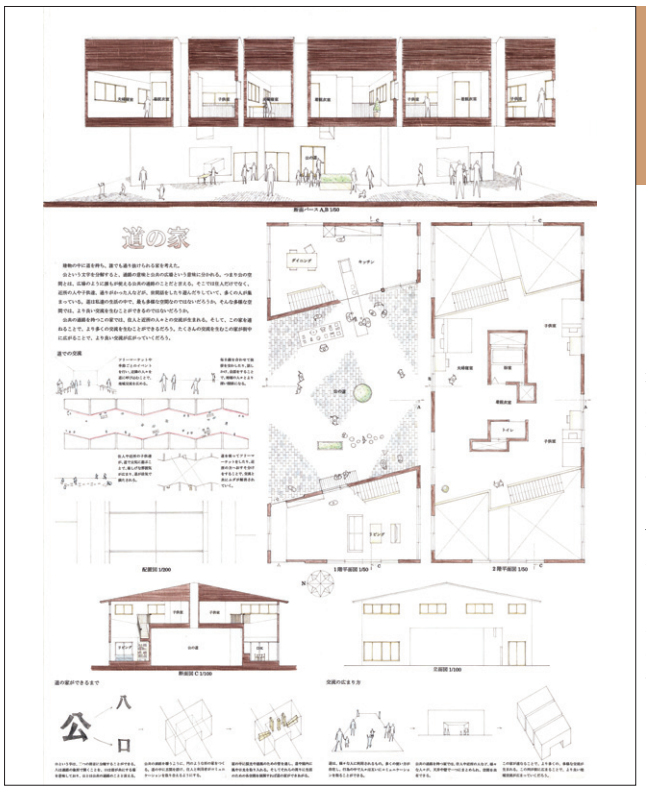
◆大学院工学研究科
博士前期課程　＊環境共生システム学専攻　＊機械システム工学専攻　＊電子情報メディア工学専攻　＊建築デザイン学専攻
博士後期課程　＊環境共生システム学専攻　＊機械システム工学専攻　＊電子情報メディア工学専攻　＊建築デザイン学専攻

■平成27年度　大学院　社会人特別選抜入試日程

	日程			
	出願期間	面接試験	合格発表	手続締切
二次募集	平成27年2月5日～2月12日	2月23日	3月5日	平成27年3月10日

お問合せ先：教務部教務課　大学院入試係　TEL　0480-33-7507　URL　http://www.nit.ac.jp

※1　インターネット出願は、12/20(土)より受付開始！
※2　本学会場で受験を希望する方で、出願書類を持参する場合には、1/24(土)・26(月)に入試室窓口で受け付けます。
※3　11/22(土)進学相談会でエントリー可（同日に第1回面談を実施）
［試験会場は本学のほか、仙台・水戸・高崎・宇都宮・東京・長野・新潟・金沢を設置！（専門高校入試(B工業科)、一般推薦入試(公募制)）］
＊専門高校入試（B工業科）　＜出願期間＞第1期：10/16(木)～11/11(火)、第2期：11/25(火)～12/9(火)
＊一般推薦入試（公募制）　＜出願期間＞第1期：11/ 1(土)～11/11(火)、第2期：11/25(火)～12/9(火)
＊各入試の詳細は、それぞれの「募集要項」でご確認ください。
願書のご請求およびお問い合せ先　入試室　電話：0120-250-267



第28回日本工業大学建築設計競技
テーマ「公の家」

全国60校より236点の応募。入賞作品はLCセンターで展示。

建築を学ぶ全国の高校生を対象に実施される日本工業大学建築設計競技は、今年度で第28回となる。今回は、審査委員長に建築家の柳澤潤氏を迎え、「公の家」を課題に開催。60校より236点の応募があった。入賞者の作品は11月1日(土)から3日(月)まで、本学大学祭期間中にLCセンターで展示され、2日(日)には同センター・マルチメディア教室で表彰式と審査委員長による講評とスライドレクチャーが行われる。

建築設計競技で1等に入選して

静岡県立科学技術高等学校　建築デザイン科(3年)
梶田　雅斗

今回は、このような素晴らしい賞を頂き、感謝しています。この家は、公という漢字の意味や由来を調べている途中で思いついたものです。公という漢字は、「通路」と「公共の広場」という意味からつくられました。その意味を形にしたものが私の提案です。この公の家は、家の中に公共の通路を含み、多様な人のつながりを生む空間です。

この作品を仕上げるために、夏季休暇のすべてを費やしました。毎日考えていく中で生まれたもので、受賞を聞いた時は、本当に感激しました。しかし、私一人だけでは、この名誉は得られませんでした。審査員の皆様、指導して下さった先生、相談に乗ってくれた家族や友人など、この作品に関わって下さった多くの人のおかげであり、感謝しております。この気持ちを忘れず、今後の作品制作に力を入れていきたいです。

〝家〟を通して新しいコミュニティのありかたを問う

審査委員長　柳澤　潤

日本の高校生は今、家というものにどんな興味を抱いているのだろうか？私たちがそうであったように家族が当たり前の単位で一緒に過ごすことが今でも普通に思っているのか、それとも家は単なる個の集合くらいに思っているのだろうか。しかしながら現実はそうした家族や個の在り方をも解体してしまうほど進んでしまっている。いわゆる住宅が以前ほど必要とされない時代に突入している。こうした現実を踏まえて高校生にもし住宅が家族だけで住むものではなく、もう少し広い範囲、例えば友人同士、近隣同士、趣味のあう仲間同士など様々な住まいかたを想定してもらいながらそれでも人が一緒に暮らす意味を問いかけたい、と思って今回のテーマ〝公(おおやけ)の家〟と名付けた。はっきり言ってこのテーマは大学3年生レベルの課題である。ちょっと難しかったかなあ、と課題を決定した後に若干後悔もしたが審査会場に足を踏み入れた瞬間その疑問は杞憂に終わった。236作品もの案が〝公(おおやけ)の家〟に対する回答として寄せられた。地域の公民館のような家、公園のような家、地域を活性化させるための家、まちのような家など〝公〟に対する高校生のイメージはおそらく大学生にはない素直で希望に満ちたものであった。まだまだ家の設計にはこんなに広がりがあるのだ、と高校生に感動をいただいた。私は今回の高校生の提案全てを大学生にも見てもらいたい、おそらく建築学科に進む学生だけでなく文学や社会学、経済学、医学に福祉など多くの分野にこれから進むであろう若きクリエーターの家や家族、地域やまちに対する希望がここに表れている。今回の審査を終えて我々建築家はもっとこのように人に希望を与えなければいけない、と痛切に感じたのである。審査にはほぼ一日を費やしたが次世代の若者に激励され触発された心地良い一日であった。若者たちにお礼を言いたい。

柳澤　潤
(建築家・東京工業大学大学院連携准教授)

1964年生まれ。1992年東京工業大学大学院修士課程修了。伊東豊雄建築設計事務所を経て、2000年コンテンポラリーズ一級建築士事務所を設立。2011年から東京工業大学大学院にて教鞭を執る。2006年みちの家、2011年ルネヴィレッジ成城で東京建築士会・住宅建築賞受賞、主な作品に塩尻市市民交流センターえんぱーく、2013年熊本アートポリス高野病院プロポーザルにて最優秀賞受賞、2013年神奈川建築コンクールにて優秀賞「京浜急行黄金町高架下スタジオ」。

入賞者　○印は共同作品の代表者

審査結果	氏　名	高校名	学科・学年
一　等	梶田　雅斗	静岡県立科学技術高等学校	建築デザイン科3年
二　等	遠藤　駿	静岡県立科学技術高等学校	建築デザイン科3年
三　等	野口真優梨	富山県立高岡工芸高等学校	建築科3年
審査員賞(柳澤潤)	喜多　広実	神戸市立科学技術高等学校	都市工学科2年
審査員賞(小川次郎)	山中　隆志	愛知県立碧南工業高等学校	建築科3年
審査員賞(金野千恵)	神尾　健太	埼玉県立熊谷工業高等学校	建築科3年
佳　作	相澤　宏樹	埼玉県立熊谷工業高等学校	建築科3年
佳　作	阿部かなこ	福島県立福島工業高等学校	建築科3年
佳　作	清水柚美子	埼玉県立熊谷工業高等学校	建築科2年
佳　作	高山　大輝	静岡県立科学技術高等学校	建築デザイン科2年
佳　作	○竹谷　龍 渡　隆盛 後藤　広樹	兵庫県立神戸工業高等学校	建築科2年 建築科2年 建築科1年
佳　作	田畑　久蔵	千葉県立市川工業高等学校	建築科3年
佳　作	○渡　隆盛 竹谷　龍 後藤　広樹	兵庫県立神戸工業高等学校	建築科2年 建築科2年 建築科1年
奨励賞	新井　翔	埼玉県立熊谷工業高等学校	機械科3年
奨励賞	太田　帆南	三重県立四日市工業高等学校	建築科2年
奨励賞	○柏倉　康平 高坂　昌樹	北海道札幌工業高等学校	建築科3年 建築科3年
奨励賞	佐々木　耕	青森県立青森工業高等学校	建築科3年
奨励賞	○辻村　真人 秋元　啓佑 鎌田　健太	北海道札幌工業高等学校	建築科3年 建築科3年 建築科3年
奨励賞	寺田　佳夫	京都市立伏見工業高等学校	ｼｽﾃﾑ工学科住環境ｼｽﾃﾑｺｰｽ3年
奨励賞	鳥山　芽久	山梨県立甲府工業高等学校	建築科3年
奨励賞	長尾穂の華	神戸市立科学技術高等学校	都市工学科3年
奨励賞	野村　奈央	国立東京工業大学附属科学技術高等学校	立体造形・ディジタルデザイン分野3年
奨励賞	橋本　倫瑠	三重県立伊勢工業高等学校	建築科1年
奨励賞	半田　由衣	東京都立工芸高等学校	インテリア科3年
奨励賞	茂木　友寛	国立呉工業高等専門学校	建築学科3年
奨励学校賞	山形県立山形工業高等学校　福島県立会津工業高等学校 福島県立福島工業高等学校　神戸市立科学技術高等学校 岡山県立水島工業高等学校		

第6回3D-CADプロダクトデザインコンテスト

北海道から沖縄まで39校がエントリー

自由デザイン部門最優秀賞作品

テーマ部門特別審査員賞作品

第6回目となる今回は、北は北海道苫小牧工業高等学校、南は沖縄県立宮古工業高等学校の参加など、全国高等学校39校からテーマ部門(「風」や「水」を活かすもの)154作品(35校)、自由デザイン部門99作品(22校)、CGアイディア部門31作品(4校)のエントリーがあった。10月26日(日)に行われた授賞式では、齋藤和彦氏(長岡造形大学プロダクトデザイン学科・教授)の講演、入賞作品全ての造形品が展示された。

自由デザイン部門の最優秀賞はP72：福田海人君(群馬県立富岡実業高等学校)、また奨励学校賞は栃木県立宇都宮工業高等学校、他4校が受賞した。なお、テーマ部門とCGアイディア部門の最優秀賞は該当なしであった。

審査結果

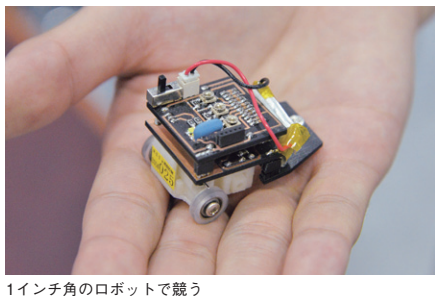
各賞	高校名
奨励学校賞	秋田県立大曲工業高等学校
奨励学校賞	宮城県米谷工業高等学校
奨励学校賞	栃木県立宇都宮工業高等学校
奨励学校賞	茨城県立総和工業高等学校
奨励学校賞	静岡県立科学技術高等学校

各賞	チーム名／名前	高校名
テーマ部門：「風」や「水」を活かすもの		
最優秀賞	該当なし	
特別審査員賞	太田　えみか	愛知県立鶴城丘高等学校
優秀賞	愛大附属高校課題研究	愛媛大学附属高等学校
優秀賞	平澤　優	群馬県立前橋工業高等学校
優秀賞	古田　綜一郎	長野県松本工業高校
優秀賞	鈴木　夏実	愛知県立起工業高等学校
優秀賞	冨岡　渓人	群馬県立前橋工業高等学校
エコロジー賞	岡工D科CAD班	長野県岡谷工業高等学校
審査員特別賞	田上　日奈子	愛知県立起工業高等学校
審査員特別賞	山田　拓実	宮城県工業高等学校

各賞	チーム名／名前	高校名
審査員特別賞	3200	東京都立府中工業高等学校
佳作	大山　聖矢	日本工業大学駒場高等学校
佳作	國分　雄太	福島県立郡山北工業高等学校
佳作	フクハラ	春日部共栄高等学校
佳作	瀬尾　里奈	東京都立王子総合高等学校
自由デザイン部門		
最優秀賞	P72	群馬県立富岡実業高等学校
優秀賞	米窪　好輝	長野県松本工業高校
優秀賞	マルチメディア部B	岐阜県立岐阜総合学園高等学校
優秀賞	石田　菜都美	愛知県立鶴城丘高等学校
審査員特別賞	洛陽工業高校・電子コース	京都市立洛陽工業高等学校
佳作	会工TSURUさんチーム	福島県立会津工業高等学校
佳作	takako	群馬県立高崎工業高等学校
CGアイディア部門：日常を彩る素敵なアイテム		
優秀賞	松本　嘉乃	兵庫県立姫路工業高等学校
優秀賞	福田　真子	兵庫県立姫路工業高等学校
佳作	まるちタクミ3	沖縄県立那覇工業高等学校
佳作	三木　ゆきの	兵庫県立姫路工業高等学校

第8回マイクロロボコン高校生大会

初心者対象部門のエントリーが倍増


1インチ角のロボットで競う

競技の様子

9月13日(土)、1都5県10高校から66名、85台が集結し競技大会が開催された。初心者を対象としたノビス部門では昨年比2倍を超える39台がエントリし、うち11台が完走した。エキスパート部門では46台中20台が予選を完走し、その上位8名が、1戦ごとに難易度が上がるコースを舞台に決勝トーナメントで熱戦を繰り広げた。競技結果は下表の通り。ここ数年、東京と長野の優勝争いが続いており各校の技術力には目を見張るものがある。その中で前大会ではノビス部門のみの参加であった会津工業高等学校が、今大会ではエキスパート部門準優勝へと躍進した。

準優勝機は実行委員会開発の入門者向けモデルがベース。入門機でも工夫次第で上位入賞できることが示された。

競技結果

	順位・賞	高校名	操作者	ロボット名
エキスパート部門	優勝	東京都立総合工科高校	内田　翔	グラジオラス
	準優勝	福島県立会津工業高校	橋本　尚樹	グレイ
	3位	東京都立総合工科高校	村田　幸史	koushi maru 二号
	4位	東京都立総合工科高校	市川　和正	氷華
	5位	長野県飯田OIDE長姫高校	加藤　純司	シモ・ヘイヘ
	5位	長野県飯田OIDE長姫高校	後藤　昌平	まっだくすふんど
	5位	長野県箕輪進修高校	阿部　厳	川内川内
	5位	長野県松本工業高校	大月　航	みそばた
ノビス部門	優勝	福島県立会津工業高校	弓田　快	you
	準優勝	埼玉県立狭山工業高校	原谷　福太良	GO 号2
	3位	埼玉県立狭山工業高校	藤木　和真	アギト
	4位	東京都立八王子桑志高校	森田　魁	k
特別賞	技術賞	福島県立会津工業高校	五十嵐　基	pinky
	エコロジー賞	埼玉県立狭山工業高校	中村　駿太	狭工
	デザイン賞	長野県飯田OIDE長姫高校	上沼　弘晃	スイスイスイスイスイスイ
	学長賞	東京都立八王子桑志高校		

国際交流・海外研修

衢州中等専業学校の一行が来学

7月30日（水）から8月3日（日）まで、留学生別科の協定校である中国浙江省・衢州中等専業学校から、張玉琴校長を代表とする教員5名、学生5名の一行が来学した。同校からは毎年多くの卒業生が本学に留学し、現在も8名が勉学に励んでいる。今回の訪問目的は、学長表敬、教育・研究施設の見学、留学生別科での日本語研修、先輩在学生との交流と盛りだくさんであった。施設見学では、2日間にわたって、様々な施設を熱心に見学した。留学生会主催の夕食会も催され、先輩とも賑やかに交流した。また、8月1日は期末試験終了後の夏祭り大会開催日であったことから、普段は見られない屋外イベントや模擬店を楽しみつつ、キャンパスの雰囲気を実感している様子であった。

機械実工学教育センターなどを見学する一行

夏休みを利用したカナダ語学研修

実践異文化理解という語学研修プログラムは英語と海外での実体験を融合させた科目で、今年度は7月31日～8月25日の26日間行われた。

カナダ、アルバータ州クローズネストパスにある日本工業大学カナダ研修所での3週間の語学・アウトドアプログラムは、朝8時からの語学クラスと午後のアウトドアアクティビティーによって、全身で英語のシャワーを浴びる。さらに毎週行われるアクティビティー・フィールドトリップ（乗馬、ラフティング、炭鉱ツアー）は日常の学習と連動した学習となる。今年は例年以上に成果の上がった年であった。

座学のほか、アウトドアでも英語を学ぶ

インド、ベトナムにおけるインターン研修

研修は9月2日（火）～9日（火）の8日間で、21名が参加した。

ベトナム研修では、ホーチミン市内の工場2社を見学し、アジアにおけるわが国製造業の役割を実感することができた。

カンボジアでは、日本のアンコールワット遺跡修復チームの協力による修復実習、上智大学アジア人材研究所協力による修復現場見学を実施。また、NGO団体〝かものはしプロジェクト〟の協力による工場実習なども行い、製造から販売までの流れを体験した。

ベトナム中部のダナン市では、本学生活環境デザイン学科樋口佳樹准教授の指導のもと、ダナン大学の学生と共に水質調査を実施。現地大学生との交流も楽しんだ。

梅崎教授が学会賞受賞

機械工学科の梅崎栄作教授が8月29日（金）、日本実験力学会の技術賞を受賞した。受賞論文名は「紫外線硬化樹脂の硬化過程における流動と熱解析」。

紫外線硬化樹脂の硬化過程における流動と温度を経時的に同時に計測する技術を開発し、硬化過程における紫外線硬化樹脂の動き（流動）は主として硬化時の樹脂の収縮により生じ、反応の際に生じる熱の影響をほとんど受けないことを明らかにした。この計測技術は、収縮により残留応力が生じる紫外線硬化樹脂製品の強度的信頼性向上のための必要データの取得に利用され、同樹脂を用いた製品の品質向上に繋がると期待されている。

専門職大学院だより

専門職大学院の秋学期

大学院技術経営研究科・教授　清水　弘

技術経営大学院の一年間のうち四学期のそれぞれが、院生にとって節目となる。秋学期は特に大きな節目と言える。

秋になると仕事と授業を両立する生活には慣れてくるが、この時期から特定課題研究が始まる。これは勤務先の会社の方向性や業務などの課題解決、自分の起業プランなどの研究をするものだ。

研究を進めるために院生はゼミに所属するが、そこで先輩修了生と接する機会が増えてくる。修了生の多くは大学院での研究を自ら実践しており、自信に溢れた姿で後輩に接する。

院生は、春夏の授業で沢山の知識は学んでいるが実践はまだまだで、修了生から刺激を受けつつ、自分とのギャップも感じる。知識を学ぶ受身の姿勢から、自分で研究を進め実践するという段階に進むことへの期待と、自分が出来るかという不安が入り混じる。

加えて研究を進めている間にも、仕事の方でも様々な出来事に直面する。秋は院生にとってタフな日々を過ごす期間となる。

そこで重要になるのがクラスの仲間だ。一年制のため、授業スケジュールはタイトになっており、クラスの仲間とはほぼ毎日顔を合わせる。ひょっとすると、職場の人達よりもクラスの仲間に多く接しているかもしれない。

勤務先での立場は社長と若手社員などまったく異なっていても、お互いに何でも話せる関係が出来上がって来ている。このクラスの仲間との関係に、ゼミの先輩後輩の関係も相まって、仲間が広がりさらに密接になっていく。

この仲間や先輩に支えられながら仕事、授業と秋学期からの研究を両立させ、翌春には一年前とは異なる仲間も交え、修了生として次のチャレンジへ挑戦していく。

専門職大学院 オープンキャンパス

2014 **12/6(土)**　2015 **2/7(土)**

説明会、模擬授業、パネル討論会、キャンパスツアー 等

◆詳細・最新情報はウェブサイトをご覧ください。
http://mot.nit.ac.jp/admission/opencampus/

日本工業大学 専門職大学院 大学院技術経営研究科 技術経営専攻
TEL. 03-3511-7591　E-mail: mot@kanda.nit.ac.jp

第47期決算・第48期予算

日本工業大学の財務状況について

一・はじめに

第四十七期決算、第四十八期予算が公認会計士及び法人監事の監査を受け、法人理事会・評議員会で承認決定されたため、ここに財務諸表をお知らせし、関係各位のご理解と引き続きのご協力・ご支援をお願いする。

平成二十五年度（二〇一三年度）に本学が行った主な事業等は次の通り。

●生活環境デザイン学科実験研究棟竣工。自然光を利用した省エネ化、建物内部構造の見える化等により利便性と学生の創造性が向上。二階部分には、福祉関連の学生実験・実習施設を設置。

●体育館耐震化・リノベーション工事を実施。アリーナの拡張や二階に観客席を設置。トレーニング室も増床し、今後はトレーニングマシンも一新予定。併せて、健康管理センターも増床工事を行った。教育環境の充実と共に災害発生時の避難場所等、多目的な利用が可能となった。

●埼玉県・白岡市総合防災訓練が本学を会場に実施。埼玉県知事や自衛隊も参加しての合同訓練となり、学生・職員だけでなく近隣住民も参加。今後も継続して防災訓練を行う。

二・平成二十五年度決算について

学校法人会計基準に基づく主たる財務諸表には次の三表がある。①全ての資金の流れとその顛末を示す「資金収支計算書」（別表1）、②各年度における収支の均衡状態や財政の健全さを見る上での指標となる「消費収支計算書」（別表2）、③決算時点における財政状態を明らかにした「貸借対照表」（別表3）の三表である。また（別表5）にて「消費収支計算書主要項目の分析表」を添付。詳細については別表をご参照いただきたい。

（消費収支計算書）

○収入の部

学生生徒等納付金は、前年度比四千三百万円の増、手数料は受験生の増加により二百十万円の増収となった。寄付金は前年度比四千四百万円増加した。補助金は、六千六百万円減少したが、施設設備等補助金申請の減少によるもの。資産運用収入は、前年度比約七千百万円の増加、これは有価証券の償還差益によるものである。日本国債を中心とした安全面を優先とした運用を実施。雑収入では、前年度比七百万円の減、定年退職者要因によるものである。以上の結果、帰属収入は前年対比九千七百万円増加し、七十六億六千七百万円となった。基本金組入額とは大学の教育研究環境を永続的に維持向上させるために不可欠な資産投資を示したもの。

○支出の部

人件費は新規教員の採用もあり、前年度比九百万円の増加となった。教育研究経費は総額で二十四億九千万円となり、前年度比七百万円減少。減価償却費の減少が主な要因となった。学生への還元を表す教育研究費比率（別表5ご参照）は約三二・六％であり、全国的にも高い水準を維持している。管理経費は総額で五億八千三百万円、前年比三千三百万円増加。学生募集費等の要因によるもの。

三・平成二十六年度予算について

（資金収支予算書）

平成二十六年度の全ての資金の流れとその顛末を示す「資金収支予算書」（別表4）の概略は次のとおり。主たる収入である学生生徒等納付金収入は、学部・大学院共学生数を厳し目に予測した。補助金は今後も積極的に申請・獲得を目指す。

教育研究経費支出は直接学生諸君に係る経費のため、今後も高水準を維持できる予算とした。施設・設備関係支出では、今年度も防災強化関連の予算を計上。大型設備の更新等も見込んだ予算とした。

四・むすび

今夏、学生・教職員・近隣住民参加の防災訓練を実施。防災・減災等の危機管理体制強化の一環として学内に井戸を掘削。補助金申請も行った。大学創立五十周年を控え、今後も特色ある教育研究を推進してゆく。そのためには、学生、ご父母、卒業生の皆様のご理解が不可欠であり、引き続き関係各位の皆様のご協力・ご支援をお願い申し上げる次第である。

（財務部）

（別表1）資金収支計算書　単位：千円

科目	H25年度	H24年度	増減
収入の部			
学生生徒等納付金収入	6,388,449	6,345,144	43,305
手数料収入	76,268	74,095	2,173
寄付金収入	109,876	72,656	37,220
補助金収入	557,198	623,657	△66,459
資産運用収入	235,266	166,997	68,269
資産売却収入	0	0	0
事業収入	49,188	39,114	10,074
雑収入	193,109	201,167	△8,058
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	2,257,423	2,163,215	94,208
その他の収入	490,319	891,511	△401,192
資金収入調整勘定	△2,458,228	△2,527,841	69,613
前年度繰越支払資金	3,921,005	3,941,466	△20,461
収入の部合計	11,819,873	11,991,181	△171,308
支出の部			
人件費支出	2,733,583	2,737,253	△3,670
教育研究費支出	1,516,881	1,487,865	29,016
管理経費支出	540,236	506,987	33,249
借入金等利息支出	39,791	52,435	△12,644
借入金等返済支出	343,340	396,110	△52,770
施設関係支出	915,516	926,871	△11,355
設備関係支出	287,034	176,380	110,654
資産運用支出	1,665,981	1,492,919	173,062
その他の支出	424,982	406,396	18,586
資金支出調整勘定	△130,374	△113,040	△17,334
次年度繰越支払資金	3,482,903	3,921,005	△438,102
支出の部合計	11,819,873	11,991,181	△171,308

（別表2）消費収支計算書　単位：千円

科目	H25年度	H24年度	増減
消費収入の部			
学生生徒等納付金	6,388,449	6,345,144	43,305
手数料	76,268	74,095	2,173
寄付金	128,395	83,782	44,613
補助金	557,198	623,657	△66,459
資産運用収入	219,587	148,494	71,093
資産売却差額	0	0	0
事業収入	49,188	39,114	10,074
雑収入	251,772	259,489	△7,717
その他の収入	0	0	0
帰属収入合計	7,670,857	7,573,775	97,082
基本金組入額合計	△1,123,744	△941,625	△182,119
消費収入の部合計	6,547,113	6,632,150	△85,037
消費支出の部			
人件費	2,723,952	2,714,531	9,421
教育研究経費	2,499,488	2,506,508	△7,020
管理経費	583,154	549,563	33,591
借入金等利息	39,790	52,435	△12,645
資産処分差額	67,389	32,229	35,160
その他の支出	288,975	256,083	32,892
消費支出の部合計	6,202,748	6,111,349	91,399
当年度消費収支超過額	344,365	520,801	△176,436
前年度繰越支出超過額	△3,497,009	△4,017,811	520,802
翌年度繰越支出超過額	△3,152,644	△3,497,010	344,366

（別表3）貸借対照表　単位：千円

資産の部			
科目	H25年度	H24年度	増減
固定資産	42,836,559	41,260,895	1,575,664
有形固定資産	20,622,339	20,478,328	144,011
その他の固定資産	22,214,220	20,782,567	1,431,653
流動資産	3,973,048	4,324,284	△351,236
合計	46,809,607	45,585,179	1,224,428

負債・基本金・消費収支差額の部			
科目	H25年度	H24年度	増減
負債の部	5,316,963	5,560,643	△243,680
固定負債	2,291,905	2,554,386	△262,481
流動負債	3,025,058	3,006,257	18,801
基本金の部	44,645,289	43,521,545	1,123,744
翌年度繰越消費収支差額	△3,152,645	△3,497,009	344,364
合計	46,809,607	45,585,179	1,224,428

（別表4）資金収支予算書　単位：千円

科目	H26年度	H25年度	増減
収入の部			
学生生徒等納付金収入	5,910,710	5,951,507	△40,797
手数料収入	52,000	54,470	△2,470
寄付金収入	67,030	67,030	0
補助金収入	426,000	456,500	△30,500
資産運用収入	121,500	24,000	97,500
資産売却収入	0	0	0
事業収入	31,603	30,544	1,059
雑収入	130,511	113,300	17,211
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	1,982,382	1,942,767	39,615
その他の収入	1,568,078	1,529,723	38,355
資金収入調整勘定	△2,257,423	△2,163,216	△94,207
前年度繰越支払資金	3,482,903	3,921,005	△438,102
収入の部合計	11,515,294	11,927,630	△412,336
支出の部			
人件費支出	2,880,931	2,791,520	89,411
教育研究費支出	1,840,168	2,065,075	△224,907
管理経費支出	836,733	759,270	77,463
借入金等利息支出	30,190	39,800	△9,610
借入金等返済支出	252,850	343,340	△90,490
施設関係支出	317,000	817,600	△500,600
設備関係支出	248,312	302,091	△53,779
資産運用支出	1,456,500	1,430,000	26,500
その他の支出	479,164	497,247	△18,083
〔予備費〕	110,000	110,000	0
資金支出調整勘定	△21,394	△26,063	4,669
次年度繰越支払資金	3,084,840	2,797,750	287,090
支出の部合計	11,515,294	11,927,630	△412,336

（別表5）消費収支計算書の主要項目の分析表

主要項目の分析比率（%）	H25年度	H24年度	増減
補助金／帰属収入	7.3%	8.2%	-1.0%
人件費／帰属収入	35.5%	35.8%	-0.3%
教育研究経費／帰属収入	32.6%	33.1%	-0.5%
管理経費／帰属収入	7.6%	7.3%	0.3%
借入金等利息／帰属収入	0.5%	0.7%	-0.2%
人件費／学生納付金	42.6%	42.8%	-0.1%

第43回教育改革シンポジウム
「授業改善を問う」

第43回教育改革シンポジウムが7月31日（木）に開催された。

本学には「教育の質保証」のための取り組みとして「学生による授業評価」および全教員を対象とした「授業公開・相互評価」がある。

今回は、「学生による授業評価」の集計結果を基に、満足度の高かった上野貴博准教授、松田洋准教授、齋藤理佳非常勤講師の3名がプレゼンターとして登壇した。

発表に先立ち、教育研究推進室の栗本課長より「学生による授業評価」等の集計結果に関する説明があり、授業への評価の全体像が浮き彫りとなった。続いて、プレゼンターの教員が、授業への満足度が高かったと考えられる理由等の説明を事例も交えて行った。授業方法は三者三様だが、学生を成長させたいという授業への情熱は共通するものがあった。また、質疑応答も活発に行われ、各教員の取り組みを組織の取り組みに昇華する、貴重な機会となった。

授業満足度が高い教員が自身の授業について説明

体育研究室が制作に協力した
みやしろキラキラ体操

体操は本学、宮代町（埼玉県南埼玉郡）、NPO法人「きらりびとみやしろ」の3者共同で制作された。共通教育系体育研究室の荒金幸子講師が振り付けを担当、高齢者に配慮した動きを検討するなどの試行錯誤を重ね、昨年に完成した。立った状態、座った状態の2パターンあるのが特徴で、時間は約6分。

今年から本格的に認知度向上に努め、本学では6月7日（土）に指導者養成講座を開き、荒金講師が50名の町民指導者に指導を行った。7月20日（日）には町の施設でお披露目会が催され、100名の参加者を集めた。

荒金講師による町民指導者養成講座

震度6強の首都直下地震を想定した
防災訓練を実施

8月28日（木）、本学宮代キャンパスにおいて防災訓練が行われた。

当日は、時折小雨が降る天候であったが、学生、教職員、関連会社、近隣住民等、120名が参加。首都直下を震源とする地震が発生し宮代町内で震度6強の揺れを観測したとの想定をもとに、午前9時よりその場で身の安全を確保するシェイクアウト訓練から始まり、校内一斉放送による避難訓練、負傷者搬送訓練、初期消火訓練、マンホールトイレの設置訓練等を行った。

訓練終了後には、宮代消防署から講評があり、改めて防災への意識を高める一日となった。

実際に消火器を用いて行われた消火訓練

女子学生向けランチを販売開始

女性職員の意見を元にメニューを考案し、秋学期から第一食堂で販売。月～金の各日20食限定で390円。

小中学生対象のものづくり体験教室を実施

イベント名称	主な内容	実施日	参加数
中学生科学教室	光に関する講義、分光器製作	7/26（土）	14名
親子ものづくり教室	木炭電池製作など5テーマ	8/ 2（土）	41組
ひらめき☆ときめきサイエンス	福祉ロボット製作	8/ 3（日）	20名
加須市少年少女発明クラブ体験教室	創作ロボット製作	8/ 6（水）	36名
関東地区リフレッシュ理科教室	実験、骨伝導スピーカー製作	8/23（土）	40名
子ども大学みやしろ	物理実験や動物園見学など	9･10月の計4回	52組

夏休みの期間を利用して、小・中学生やその保護者を対象とした各種体験教室が実施された。理科や工業技術への興味喚起を目的として毎年実施している。上記の通り講義、実験、製作・実習などバラエティに富んだ内容で、各学科および共通教育系の教員や学生が丁寧に指導を行った。小・中学生にとっては夏休みの自由研究のテーマとしても最適で、また、大学キャンパスで大学教員から指導を受けられる機会とあって、各イベントとも定員を超える応募があった。

中学生科学教室

加須市少年少女発明クラブ体験教室

関東地区リフレッシュ理科教室

親子ものづくり教室

AEDを10台増設

自動体外式除細動器（AED）を学生の利用が多い運動場を中心に10台増設。キャンパス内の設置は15台となった。具体的な設置場所については学生支援課まで。

日本工業大学吹奏楽団
第31回定期演奏会
12/7(日)開催　入場無料
春日部市民文化会館大ホール
http://blogs.yahoo.co.jp/nit_wind

東武動物公園
11/14(金)
埼玉県民の日
大学生も無料
地元のレジャー施設を体験してみよう!
◆詳細はWEBサイトで…

人事異動

【任用】（9月1日付）
◆佐藤進也教授（情報工学科）昭和38年9月30日生まれ。昭和63年3月東北大学大学院理学研究科数学専攻博士前期課程修了。博士（情報理工学）。前日本電信電話（株）未来ねっと研究所主任研究員。
◆竹村暢康准教授（電気電子工学科）昭和48年1月27日生まれ。平成10年3月東京理科大学大学院理工学研究科電気工学専攻修士課程修了。博士（工学）。前（株）サムスン日本研究所専任研究員。
◆竹本泰敏助教（電気電子工学科）昭和56年6月11日生まれ。平成22年3月芝浦工業大学大学院工学研究科博士課程地域環境システム専攻修了。博士（工学）。前独立行政法人国立高等専門学校機構福井高等専門学校講師。
（10月1日付）
◆芳賀健講師（共通教育系）昭和45年11月19日生まれ。平成10年3月大阪市立大学大学院理学研究科後期博士課程生物学専攻修了。理学（博士）。前新潟大学理学部特任助教。
◆進藤卓也助手（電気電子工学科）昭和55年9月21日生まれ。平成26年3月日本工業大学大学院工学研究科電気工学専攻博士後期課程修了。博士（工学）。前埼玉県立浦和工業高等学校非常勤講師。
【昇任】（10月1日付）
◆張暁友准教授（機械工学科）→教授に昇任
◆飯塚完司准教授（創造システム工学科）→教授に昇任
◆足立真准教授（生活環境デザイン学科）→教授に昇任
【任命】（9月1日）
◆英語教育センター長兼務
波多野純学長（再任）
（10月1日）
◆機械工学科主任
神雅彦教授（新任）
◆創造システム工学科主任
中里裕一教授（新任）
◆情報工学科主任
辻村泰亶教授（新任）
◆生活環境デザイン学科主任
黒津高行教授（新任）
◆機械システム工学専攻幹事
長坂保美教授（新任）
◆電子情報メディア工学専攻幹事　青柳　稔教授（新任）
◆建築デザイン学専攻幹事
三坂育正教授（新任）
◆機械工学専攻幹事
長坂保美教授（再任）
◆電気工学専攻幹事
青柳稔教授（再任）
◆建築学専攻幹事
三坂育正教授（新任）
◆留学生別科長兼担
古閑伸裕教授（再任）
【配置換】（10月1日）
◆学修支援センター
河住有希子講師→共通教育系
【解任】（9月30日）
◆学生支援部長補佐
呉志良准教授
◆機械システム工学専攻幹事
中里裕一教授

国外出張

◆市川泰弘准教授（共通教育系）／出張先＝カナダ（7／31～8／25）／目的＝「実践異文化理解」参加者の指導および引率（参加学生9名）
◆廣田純子准教授（共通教育系）／同前
◆樋口佳樹准教授（生活環境デザイン学科）／出張先＝フィリピン（8／3～8／8）／目的＝埼玉・セブものづくり人材育成事業
◆中野道王教授（機械工学科）／出張先＝フィリピン（8／4～8／6）／目的＝同前
◆石川　孝教授（情報工学科）／出張先＝中国（8／16～8／21）／目的＝2014　IEEE／ACM　社会ネットワーク分析マイニング国際会議での論文発表
◆岡崎昭仁助教（スチューデントラボ）／出張先＝ブータン（8／20～8／27）／目的＝ICESTEH　2014　Bhutanにて学会発表
◆吉澤信幸教授（創造システム工学科）／出張先＝シカゴ（8／25～9／1）／目的＝国際会議EMBC　2014にて論文発表
◆伴　雅人教授（創造システム工学科）／出張先＝イギリス（8／30～9／5）／目的＝欧州バイオマテリアル国際会議での研究発表
◆樋口佳樹准教授（生活環境デザイン学科）／出張先＝ベトナム（8／31～9／7）目的＝ホーチミン、ホイアンにおける排水処理の現地視察および河川・地下水の水質調査
◆那須秀行教授（建築学科）／出張先＝カナダ（9／5～9／16）／目的＝2×4木造建築工房によるカナダ研修所での建設作業指導
◆勝木祐仁准教授（生活環境デザイン学科）／同前
◆野口憲治助手（建築学科）／出張先＝カナダ（9／5～9／11）／目的＝同前
◆正道寺　勉教授（情報工学科）／出張先＝ポルトガル（9／6～9／13）／目的＝第4回工学分野における最適化国際会議において論文発表
◆小田恭市教授（技術経営研究科）／出張先＝ドイツ（9／7～9／17）／目的＝ドイツのグローバルニッチトップ企業の発生・成長の検証
◆北久保　茂准教授（情報工学科）／出張先＝アメリカ（9／7～9／12）／目的＝第30回デジタルプリント国際会議での座長
◆石原次郎助教（情報工学科）／出張先＝カナダ（9／8～9／13）／目的＝カナダ研修所およびLCにて出前授業ならびに進学指導
◆勝木祐仁准教授（生活環境デザイン学科）／出張先＝カナダ（9／9～9／10）／目的＝同前
◆木村貴幸助教（電気電子工学科）／出張先＝スイス（9／12～9／18）／目的＝2014年非線形理論とその応用に関する国際会議にて研究発表
◆松浦隆文助教（情報工学科）／出張先＝スイス（9／12～9／20）／目的＝同前
◆江藤　香准教授（情報工学科）／出張先＝ポーランド（9／14～9／20）／目的＝知識ベース、知的情報とエンジニアリングシステムの国際会議
◆松田　洋准教授（情報工学科）／同前
◆平栗健史准教授（電気電子工学科）／出張先＝ポルトガル（9／16～9／22）／目的＝国際会議Networks 2014での論文発表
◆桑原拓也助教（ものづくり環境学科）／出張先＝ドイツ（9／20～9／27）／目的＝低温プラズマ化学に関する国際会議2014での研究成果発表
◆二ノ宮進一准教授（機械工学科）／出張先＝アメリカ（9／22～9／27）／目的＝国際砥粒加工学会での論文発表・国際砥粒委員会出席のため
◆神野健哉教授（電気電子工学科）／出張先＝アメリカ（10／4～10／10）／目的＝2014 IEEEシステム、人間、サイバネティックスに関する国際会議
◆成田健一教授（建築学科）／出張先＝ドイツ・イタリア（10／4～10／19）／目的＝第7回都市気候に関する日独会議での論文発表と座長・第3回ヒートアイランド対策に関する国際会議での論文発表
◆平栗健史准教授（電気電子工学科）／出張先＝キプロス（10／7～10／12）／目的＝無線通信端末とネットワークに関する国際会議での論文発表
◆梅谷篤史准教授（共通教育系）／出張先＝アメリカ（10／7～10／13）／目的＝第4回日米物理学会合同核物理分科会での論文発表
◆吉田　清教授（電気電子工学科）／出張先＝アメリカ（10／11～10／17）／目的＝第60回IEEEホルム会議において研究発表
◆木村貴幸助教（電気電子工学科）／出張先＝韓国（10／26～10／29）／目的＝2014年　通信と複雑系科学に関する国際ワークショップに参加、座長、論文発表
◆梅崎栄作教授（機械工学科）／出張先＝インド（10／31～11／5）／目的＝第9回実験力学における先端科学と技術に関する国際シンポジウムにて論文発表

宮代町だより 191号

特別展「英文学者 島村盛助Ⅱ」

郷土の偉人である島村盛助は、夏目漱石の教え子で、岩波書店刊行の英和辞典編さんで知られる英文学者です。平成15年に第1回目の特別展が開催され、今回は、その後約10年が経過する中で、調査により発見されてきた多くの資料が展示される予定です。皆さんのお越しをお待ちしています。

期間　11月1日(土)～12月27日(土)9時30分～16時30分／休館日月曜（祝日の場合は翌日）、12月24日(水)／入場無料／場所・問合せ郷土資料館0480・34・8882

編集後記

▼「されど、われらが日々―」で芥川賞を受賞しデビューした作家が柴田翔である。当時筆者は小学校六年生▼彼の功績を讃える記事は、今でもしっかりと脳裏に刻まれている。先日久しぶりに、その作品を読み返してみた。半世紀の時を経てもなお心に響く内容であった▼ここで、その一部を紹介しよう。「やがて、私たちが本当に年老いた時、若い人たちがきくかも知れない。あなた方の頃はどうだったのかと。その時私たちは答えるだろう。私たちの頃にも同じような困難があった。」差し詰め、「私たち」は筆者を指し、「若い人たち」はまさに学生諸君を指すのであろう▼困難は、いつの時代、どんな人にもあるのだ。文は、更に続く。「私たちの中にも、時代の困難から抜け出し新しい生活に勇敢に進みだそうとした人がいたのだと」▼困難とどのように向き合うかは永遠のテーマに違いない。【信】